

2. 事業の概要と成果	
<p>(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)</p>	<p>フィリピン国パタグ村、及びネグロス島高地において、日本のイチゴの栽培技術・観光農園手法を取り入れて、高付加価値のイチゴの栽培・流通・販売体制の構築を目指す。</p> <p>パタグ村の住民組織 BAFA の中の 3 農家が先行的に日本式イチゴ栽培方法を導入し、研修等により生産できる技術と体制が整う。</p>
<p>(2) 事業内容</p>	<p>(ア) イチゴ栽培用の農場の整備 ビニールハウス等の建設用の 3 農場を整地するとともに、専門技術者の施工による灌漑用水の引き入れを行う。これにより、ビニールハウス等の建設の準備が整った。</p> <p>(イ) ビニールハウス、タンク等の建設 コロナ禍により建設会社の変更ののち、農場 1~3 にイチゴ栽培用のビニールハウス 6 棟、タンク 3 つ、作業小屋 3 棟を順次、建設し、外構を整える。給水のパイピングなど 2021 年 2 月に建設工事が終了した。その後、ビニールハウスがイチゴ栽培に適するように調整する。</p> <p>(ウ) 高設栽培用の架台の設置 個々のビニールハウスの内部に、高設栽培用の架台を設置する。全ての苗に行きわたる灌水用のパイプを敷設し、タンクと接続する。高設栽培にすることにより、作業者の負担の軽減、観光客のピックアップに配慮した。架台、作業小屋の材料、(エ) で述べる土壌の材料の重量物を自前で継続的に運ぶ必要があるため、中古トラックを購入した。</p> <p>(エ) 土壌作成、苗の育成 BAFA が中心となり土壌の作成と苗の育成を行う。栽培に最も重要な土壌は 3 年間のスタートアップの経験から、鶏ふんコンポスト、もみ殻燻炭、現地の農場土壌を使用して配合する。親苗をすでに 4,000 株育成している。</p> <p>(オ) 日本人専門家の派遣によるパタグ村に適した管理手法を実証 三重県でイチゴ栽培に従事する「いのさん農園」の専門家の 2 回の現地訪問を受け、現地の栽培農場にて、パタグ村に応じた栽培方法、減化学肥料を実現するための研修を実施する計画であった。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により、2 年次に延期する。 「いのさん農園」に代わり、マニラ近郊の経済特区で合弁事業を営み、苗、農薬等を販売する MKP, INC の専門家のアドバイスを、メール、Messenger で受けている。 本事業の 2 年次の目標である、苗を販売してイチゴ栽培をネグロスに広めること、イチゴの果実を広域に販売することから、MKP, INC とは苗の流通、イチゴの果実のマーケティングで協同することを確認している。</p> <p>(カ) 日本での研修事業 BAFA のメンバーの 1 名 (リーダー候補 3 名のうち、1 名) が日本人専門家の農場で、イチゴ栽培の GAP (Good Agricultural Practices) 等でトップランナーの 1 つである「いのさん農園」(三重県津市) などで 2 週間の研修を受ける計画であった。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により、2 年次に延期する。</p>

<p>(3) 達成された成果</p>	<p>当初、ビニールハウスの建設を5月から開始し、10月に完工する予定であったが、コロナパンデミックにより、建設業者を変更し、9月に建設開始、2021年2月に完工した。</p> <p>栽培農家数として15農家の目標が、12農家にとどまった。Patag村以外の農家へのアプローチが、人の移動制限のため皆無となっている。事業開始前のスタートアップ時に、多くの視察者を受け入れてきたが、現在、視察も困難な状況である。今後、行政の支援を得ながら、イチゴを栽培する農家を確保したい。栽培本数も、建設の遅れと農家の確保の困難さから、1年次終了時の目標本数の確保が難しい見込みである。コロナ禍により、パタグ村の農業従事者の日本研修と日本人専門家のオンサイト研修を実現できなかった。</p> <p>建設工事が大幅に遅れた。しかし栽培を本格化させ、イチゴ成果の収穫の見込みが立ってきている(3月時点でまだ収穫はほとんどない)。先行して栽培している良質のイチゴで、一粒重量は10グラムあり、目標12グラムに近い。しかし、糖度は7にとどまり、施肥の改善が必要である。</p> <p>本格的な生産に至っていないため、SDGs1「貧困をなくそう」、SDGs8「働きも、経済成長も」の実現には至っていないが、ビニールハウスが小規模でも高い生産性を上げることができると、森林を守るプラスの方向に働き、SDGs15「陸の豊かさを守ろう」を実現しつつある。</p>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="488 869 738 1014">期待される成果</th> <th data-bbox="738 869 1026 1014">成果指標</th> <th data-bbox="1026 869 1353 1014">1年次完了時(2月)</th> <th data-bbox="1353 869 1473 1014">1年次目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4" data-bbox="488 1014 1473 1070">1年目は効果的な栽培方法の確立</td> </tr> <tr> <td data-bbox="488 1070 738 1406">現地に適合した技術、設備を使用して、高品質イチゴ(3年後、糖度10~12、一粒の重量15グラム¹)の栽培が可能となる</td> <td data-bbox="738 1070 1026 1406"> ① 温室数(棟) ② 栽培農家数(戸) ③ 温室栽培本数 ④ 日本での研修(人) ⑤ 糖度 ⑥ 一粒重量(g) </td> <td data-bbox="1026 1070 1353 1406"> 6棟建設完了 12 4,000 0 7 10 </td> <td data-bbox="1353 1070 1473 1406"> 6 15 9,000 1 10 12 </td> </tr> </tbody> </table>	期待される成果	成果指標	1年次完了時(2月)	1年次目標	1年目は効果的な栽培方法の確立				現地に適合した技術、設備を使用して、高品質イチゴ(3年後、糖度10~12、一粒の重量15グラム ¹)の栽培が可能となる	① 温室数(棟) ② 栽培農家数(戸) ③ 温室栽培本数 ④ 日本での研修(人) ⑤ 糖度 ⑥ 一粒重量(g)	6棟建設完了 12 4,000 0 7 10	6 15 9,000 1 10 12	<p>(4) 持続発展性</p> <p>今後生産を拡大することにより、収益を確保し、施設の減価償却分を内部留保し、持続可能な事業とする。</p> <p>さらに州や市役所と連携し、農家向けのセミナーをイカオ・アコと共同で継続的に開催する。BAFAが取り組むイチゴ栽培の講演と、行政からの優遇策の紹介等を行う。これと連動して、希望者にBAFAがイチゴ栽培方法の実地指導を有料で行う。</p> <p>シライ市の近傍で、ビクトリアス市もイチゴ栽培の協力を求めており、州政府の動きと合わせてイチゴ栽培の横の広がりを目指す。</p> <p>さらに、シライ市役所と村議会と協議しながら観光農業をさらに充実させたい(他のフルーツの観光農園化や新ロープウェイとの連携などが考えられる)。既存のリゾートからの期待度も大きく、成果やジャムの販売、お土産品の開発などで協働を模索する。将来、観光客を倍増させる。</p> <p>品質、安定収量、価格面で他地域の追随を許さないレベルのイチゴ成果を</p>
期待される成果	成果指標	1年次完了時(2月)	1年次目標										
1年目は効果的な栽培方法の確立													
現地に適合した技術、設備を使用して、高品質イチゴ(3年後、糖度10~12、一粒の重量15グラム ¹)の栽培が可能となる	① 温室数(棟) ② 栽培農家数(戸) ③ 温室栽培本数 ④ 日本での研修(人) ⑤ 糖度 ⑥ 一粒重量(g)	6棟建設完了 12 4,000 0 7 10	6 15 9,000 1 10 12										

¹ 日本のイチゴの糖度は9から15であり、本事業では中央値の糖度12を目指す。スタートアップの段階で一粒重量は9グラムであるが、日本の13~20グラムにできるだけ近づけたい。

産出し、販売が好調に推移する2年後に、果実をフィリピン全土への出荷を紹介した MKP とともに計画する。コールドマーケットの調査、出荷の障壁の調査、傷みやすいイチゴを衝撃から守るパッケージング開発など関係組織と連携して作業を進める予定である。

本事業で購入したトラック、建設したビニールハウスと付属品は事業終了後、住民組織 BAFA に MOU に基づき譲渡し、残り2年間で住民は独自で生産と販売できる能力を獲得する。